



特集

男子バレー、熱狂の哲学

“推し”で北海道を元気に

日本のバレーボールは、今秋、新時代を迎えた。

世界最高峰リーグをめざす「大同生命SV.LEAGUE(以下、SVリーグ)」が誕生したのだ。

このSVリーグと、従来のV2とV3からなる新Vリーグで、熱い戦いが始まっている。

北海道の男子バレーには、SVリーグの「ヴォレアス北海道」(旭川市)、

新Vリーグの「北海道イエロースターズ」(札幌市)があり、

両者はそれぞれユニークなチーム運営で注目されている。

その一つが、「推薦する」という意味の“推し”を重要視していることだ。

地域に熱狂をもたらす哲学を探った。

世界最高峰めざす
SVリーグ開幕

敵陣に刺さり込むパワフルなサーブは時速約百三十キロ。跳躍の最高到達点は約三メートル五十センチ。その高さから打ち下ろされるスパイクを神業のようなレシーブで拾い、攻撃に転じる。鍛え抜かれた肉体が超人的なパフォーマンスを繰り広げる競技が、バレーボールだ。今夏のパリオリンピックで、瞬きするのも忘れてボールを追った方も多いことだろう。

十月、SVリーグが開幕した。「強く・広く・社会とつながる」のミッションを掲げ、競技力のみならず事業力・ガバナンス力を含むすべての分野で「世界最高峰のリーグ」をめざすものだ。

ヴォレアス北海道(以下、ヴォレアス)は、二〇一六年(平成二十八)、旭川市で初のプロスポーツチームとして創設され、わずか六シーズンでトップリーグに到達した。リーグ最速の快挙だった。

「テレビでご覧になると試合会場では全然違います。迫力、高さ、

(写真上)10月6日、鷹栖町総合体育館で開催された2024-25シーズンのプレシーズンマッチ。ヴォレアス北海道対北海道イエロースターズの熱戦をファンが見守る。

文=北室 かず子
写真=田淵立幸



公式サポーター・専属ダンスチームの「VOREAS DREAM FORCE」によるパフォーマンス。写真提供＝ヴォレアス北海道



開幕前の9月、練習場である比布中学校旧体育館で調整を進めるヴォレアスの選手たち。町民限定の練習見学会も催される。



池田さんは、1986年旭川市生まれ。中学からバレーボールに打ち込み、高校時代には全国3位の実績がある。斬新な発想が注目を集めるSVリーグ最年少の代表。積極的なサーブとブロックで主導権を握り、最後まで諦めずチャレンジする姿勢を貫いて、サポーターと共に最高の瞬間を共有したいと語る。

ヴォレアスの環境宣言

むことだろう。まさに推しの力だ。「しっかり稼ぐことが、地域の持続可能性につながる」という池田さんの言葉には説得力がある。

パワーがある。二メートルを超える選手たちの中では、身長百九十センチの僕も小さく見えます」と、ヴォレアス北海道を運営する(株)VOREAS代表取締役社長の池田憲士郎さんは語る。「アーリーナ競技の強みはショーアップしやすいこと。小中学生の時に使っていた地元の体育館がこんなに変わるなんてと驚いていたんです。非日常をコンセプトに、スポーツの最たるもの、熱狂を創り出していきたい」とも言う。音響と照明が融合したドラマチックな演出は、試合をライブエンター

テインメントととらえるヴォレアスの真骨頂だ。池田さんは欧州のサッカーやハンドボール、米国のNBAやブロードウェイ・ミュージカルを視察し、洗練されたクリエイティブの力、ブランディングの力をヴォレアスに取り入れた。

推しとは「推薦する」の意味で、非常に気に入っている対象を指し、推しを応援する活動を推し活という。「選手個人の推しはもちろんですが、チーム全体のカッコよさをめざし、チーム全体の箱推しを広げることがテーマです。ラグビーの

ルールを難しく感じても、バレーボールのルールが全くわからないという人はいないでしょう。特に旭川周辺では雪に閉ざされた冬も年齢を問わず楽しめるスポーツとして根付いていて、ママさんバレーも盛んです。東川町、鷹栖町、比布町の町技になっているほどです」。地域を挙げて「バレー推し」なのだ。ヴォレアスは年間約五万人を動員し、そのうち約二万人が宿泊している。ヴォレアスがSVリーグにいるおかげで世界レベルの選手との対戦が見られ、さらに人を呼び込

人が集まって熱狂することに制限が課せられたコロナ禍は、池田さんをさらに深い思索に向かわせた。「スポーツエンターテインメントは、命の危険がなくて初めて楽しんでいただけるものと痛感しました。命と環境に主体的に取り組みたいと思う」「VOREAS GREEN DEAL宣言」を発表しました。まずは会場で出る多量のゴミの分別から着手し、分別率を試合ごとに大型ビジョンに表示して環境問題を考えるきっかけにしてみたいと。シーズン開始時に約五割だった分別率は、半年で約九割に達した。会場でジャンクフードを出さない取り組みも始め、昨年三月には、





強烈なスパイクを決める張 育陞(チャン ユーシェン)選手。写真提供=ヴォレアス北海道



今シーズンの新ユニフォームでプレシーズンマッチを戦うティモ タンメマー選手。高さに注目(ネットの高さは2.43m)。10月6日、鷹栖町総合体育館にて。



アタッカーへ正確なトスを供給する司令塔の山岸 隼(やまぎし じゅん)選手。

食と健康のカフェ併設複合スペース「RAWLAW BY VOREAS」を開いた。池田さん自ら生産者に会

いに行き、その思いを聞いて、北海道の素晴らしい素材で健康に良い料理を提供する。「砂糖を使わない



「RAWLAW BY VOREAS」1階のカフェレストラン。化学肥料や農薬に頼らずに育てられたものを中心に材料を選び、身体への負担が少ない食材を使用したメニューを提供。



(左)ウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好な状態)を体感し交流する場をめざす「RAWLAW BY VOREAS」。(右)「RAWLAW BY VOREAS」2階の貸し切りサウナ。余裕のある天井高、ゆったりしたサウナベンチで、身長が高い人も寛ぎやすい。

●RAWLAW BY VOREAS / 旭川市2条通6丁目258-1
☎0166-74-5506。10:00～17:00、水曜定休。



(手前)非動物性原材料のみの北海道産野菜たっぷりトルティーヤ巻き、(奥)通常は半年で出荷されるところ、山野に2年間放牧してゆっくり育てた十勝しんむら牧場の放牧豚100%ハンバーグプレート。飲み物はレモンソーダとクラフトコーラ。



健康のためヴォレアスは蜂蜜を食生活に取り入れることを提案している。白砂糖・乳製品・添加物不使用のペースト「ピーナッツハニー」やナッツの蜂蜜漬けなどバリエーションも豊かだ。カフェレストランとウェブストアで販売。

料理や、直前に蜂蜜を食べることで血糖値の急上昇を抑えることも提案していきます」。

脱炭素社会に向けて、石油使用量を減らせる液体燃料触媒「SLOW」の販売も始め、CO₂排出削減にも貢献している。

いよいよ始まったSVリーグに、ヘッドコーチのエドクラインさんはこう語る。「昨年の経験を生かしてポジションごとのバランスが良くなり、強化されています。特に、六ローテーション全体でサブの精度を上げ、相手を揺さぶる攻撃的なプレーをめざしています。また、レセプション(サブプレシブ)と攻撃の安定性も向上し、より速く多様な攻撃が展開できるようになりました。接戦が増え、勝利も増えると信じています。成長を楽しみ、ポジティブに進んでいきたいです」。

イエスタの推し活

北海道イエロースターズは、二〇一六年にサフィルヴァ北海道として設立し、二〇一九年にV3リーグに参入。昨年、北海道イエロース

ターズ(以下、イエスタ)に改名し、2023-24シーズンのV2リーグ優勝を手にした。「旧Vリーグ最後の年でしたから、V2の覇者になる歴史を作れたかったです。黒鷲旗杯では北海道勢初の八位になりましたし、十二月の天皇杯北海道代表にもなっています」と喜色

満面で語るのは(株)北海道イエロースターズCSOの平野龍一さんだ。キャプテンの郡浩也選手は「札幌の皆様の温かさ、ファンの皆様の声援のおかげでV2リーグ優勝できました。新Vリーグで初チャンピオンとして歴史を刻めるように頑張ります。北ガスアリーナへ応援に来ていただけたら、うれしいです」と勝利への決意がみなぎる。



平野さんは一九八一年、高知市生まれ。公務員、東証一部上場企業等に勤務後、妻なほ子さんの故郷札幌で起業。サフィルヴァ北海道共同代表を経て現職に。HBC「今日ドキッ!」メンテーター、HBCラジオパーソナリティも務める。なほ子さんは自らの会社を経営しながらイエスタ広報を務める。

チーム名には、選手、ファン、スポンサー、すべての人がスターで、みんなの個性で輝いてほしいという

チーム名には、選手、ファン、ス

思いを込めた。

集客力は二年連続V2リーグで
トップ。女性ファンが八〇九割を占



2023-24シーズンでV2リーグ優勝を決めた3月16日のトヨタ自動車サンホークス戦。郡選手をはじめ爆発力あるアタッカーが揃い、SVリーグと比べても遜色ない攻撃力を誇る。移籍選手がチームにフィットする12月の天皇杯ではさらなる飛躍が期待されている。写真提供＝北海道イエロースターズ

め、ファミリー層が多いのが特徴だという。公式SNSによる毎日の発信はもちろん、選手自ら発信し、六千万回に迫るリール再生回数を誇る選手もいる。

「男子バレーは、推し活マーケティングに近いと思っています。ファンにご要望をうかがうと『選手と旅行に行きたい』と。それはさすがに無理なので僕が言葉を失っている」と『選手のアクスタと旅をして、写真を撮りたいんですよ』と。アクリルスタンドなんです、生身の選手じゃなく。早速、作りましたが、売れ行きが偏ると困るので、どの選手のものかわからない



イエスタのファンが熱愛するアクリルスタンド。

ようにマスキング（伏せて）して販売させていただきました。するとファンの皆さんはまとめ買いして互いに交換し、交流が生まれているんです」。そんな推し活マーケティングの最たるものが個人スポンサー制度。一口二万円で練習用ユニフォームに自分の名前が入り、選手のインスタグラムに自分のアカウント名も入れられる。一昨年の百万円から今年は千五百万円に達した。

「イエスタに改名後、札幌市手稲区^{ほしおき}の星置神社^{ほしおき}さんから、星つながり^{ほしつな}で選手全員にお守りをいただいたことを発信したら、ファンが星



日常の中でイエスタを楽しんでほしいとの思いからTシャツ、パーカー、トートバッグなど普段使いしやすいデザインが揃う。

男子バレー、熱狂の哲学

置神社を参拝し、必勝祈願の絵馬を奉納なさっているとか。聖地巡礼の推し活ですね。札幌市、函館市、美唄市、沼田町、滝上町、とわの森三愛高校と包括連携協定を結んでいます

沼田町立沼田小学校に置き傘を贈り、バレーボール教室も開催。置き傘はバレーをしない子にも恩恵があり、チームカラーの黄色が交通安全にも有効だ。札幌市内の全小学校にも寄贈予定。写真提供＝北海道イエロースターズ



(左)対ヴォレアスのプレシーズンマッチに勝利。(右)試合後、推しの選手と交流するファン。10月6日、鷹栖町総合体育館にて。



「イェスタコミュニティcafe」では選手との触れ合いも。(右から)郡選手、山田滉太選手、谷直也選手。山田選手いわく「イェスタは選手同士の仲が良く、年齢関係なく言いたいことを言えて、真剣に優勝をめざしているのいいところ。フロントもがんばってくれています」とのこと。

が、将来は道内全自治体と結んで、各地で選手の皆様さまにバレーを見ていただきたい。僕自身、故

郷の高知県がプロ野球のキャンプ地だったので、選手をじかに見て憧れました。バレーは他のプロスポーツよりシーズンが短いので、

地域と関わる時間があるのいいところですよ。キーワードは「日常に溶け込む」。その一環として札幌市内で「イェスタコミュニティcafe」を運営し、オフには選手とも触れ合える。推しからの地域振興だ。

平野さんは四歳と二歳の二児の父でもある。子育て世代が子連れで来られる会場作りを心がけ、キッズスペースや縁日も設けている。「四歳から十八歳までからなるイェスタガールズがダンスを披露し、高校生、大学生のボランティアスタッフには受付を任せることで、運営側に立つ経験をしてもらう。子どもが憧れに触れ、夢と希望を感じる機会を与えることが、未来へつながるんです」。イェスタの実践は、次世代推しと言えさるう。それは、すべての大人の使命だと、改めて気づかされた。

北海道の男子バレーボールが生む多彩な推し。大地にとどろくスパイク、氷壁のようなブロックに熱狂しながら、地域、健康、食、環境、次世代への推しを膨らませていきたい。